

「出口」産業に関する話

文 木村安兵衛

Text by Yasuhide Kimura

「美

薬」という雑誌は医療系のフリーペーパーであるからという訳ではないのですが、今回は体の神秘について記したいと思います。というよりは完全に下の話になってしまっているので、潔癖な方、まじめな方はすぐにページをめくって別の記事へ移っていただきたい。

先日悪友に連れられて新宿3丁目の某スナックへ行く機会がありました。スナックといっても場所柄のせいかわさいビス？をするのが男性でありました。つまりゲイバーなる所に入店することになった訳です。

「わたしこの前くしゃみしたら身が出ちゃったの」「病院で診察を受けたら、お尻は出すところに入れる所ではありません。これ以上このようなが続くとお尻の調整弁の機能は低下して一生おむつの生活になりますよ」ってお叱りを受けたという話を聞くことになりました。

土地柄か話術が巧みなのか酒が入っているとそんな下品な小啖でも大爆笑してしまった自分を今、文章を書きながら猛省しています。

そんなバカ話を聞きながら自分の体験を振り返るのであります。社会人に

なったばかりの頃、新環境へのプレッシャーから腸閉塞を発症してしまい、病院へ担ぎ込まれた際、インターンシップの医師たちの目の前で「痛いのはここか？ここか？」と辱めのような診察を受けたこと。そしてそれがトラウマになってしまい、直腸検査を逃げてしまったこと。生命保険会社の法人営業担当をしていた際、大酒飲みの担当者のいる2社が同時にシェア変更の案件を抱えてしまい、年間保険料2700万円（定かではない記憶だが）と引き換えに毎晩飲み続けて出来た栄誉の負傷のイボ痔の治療のために肛門から飛び出たヒタをタコ糸で縛るといふ荒唐治を受けたこと。その担当看護婦が大原麗子に似ていて顔から火が出るほど恥ずかしかったことなどが、走馬灯の様に流れていきました。

そんな中医学の知識はないものの、ひらめきがやってきました。

「お尻の穴には目はないのに固体と液体、気体を判断して適切に放出できる」ということです。

おならをしても身が出ることはなく。身、ガスの順番の時はちゃんと「今、おならを力む事は危険だ！」と警告を発するし、水腹の時も同様の警告が発せられ

ます。お腹が緩い時に恐る恐るガスを放出して「セーフ！」なんてことは大人になってもよくあることであります。

また激辛料理好きは口で味わって、お尻で味わえるようになって一人前といわれたこと等枚挙にいとまがありません。

以前に「我々は人の人口産業なので出口産業とは分かり合えない」などという子どもっぽい発言をしてしまったことはこの辺で

水に流していただきたい。

お後がよろしいようで、下品な啖で失礼いたしました。

Profile

1969年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、千代田生命保険相互会社に入社。その後アメリカで唯一のFDA（米国食品医薬品局）研究機関である米国立製パン研究所へ留学、ベーキングサイエンスを研究する。ニューヨーク、フランスにて修業を積んだ後、その腕前と経営センスを見込まれ、エリック・カイザーの在日パートナーとして、2000年に株式会社ブランドジェリーエリックカイザージャパンを設立。2001年メゾンカイザー1号店として東京・高輪に店舗をオープンし、2020年現在41店舗を数える。

